

平成31年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
<p>「高校生活3年間で生徒の能力を最大限に伸ばし、将来展望を持たせ、進路を決めて卒業させる」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域との連携を深めた特色ある学校づくりを推進する。 2 教育活動をととして、規律ある行動とコミュニケーション能力の向上を図り、自分を大切に、他者を思いやる心を育てる。 3 生き生きとした学習活動を公開し、地域から信頼される学校づくりを推し進める。 4 自己理解を深めるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り開く能力や責任ある行動力を身につけさせる。 5 学習環境の整備や教職員の資質向上に努め、学校の評価を高め、信頼される学校づくりを推し進める。 	<p>平成30年度は前年度の成果と課題を踏まえ教職員が一丸となって本校の教育活動を前進させることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 広報等について 本校の教育活動を正しく、広く理解してもらうための広報活動を積極的かつ効果的に行うことができた。また中学校教員向け説明会や平日夜の保護者説明会も定着してきており、工夫ある学校案内等も制作している。今後さらに魅力ある広報活動を展開し、中学生に「第一希望」として選ばれる学校づくりを進めていきたい。 2 進路指導について 平成30年度から新設された「特進エリア」の進路指導体制を定着させることをととして、組織的な進路体制の構築が進んだ。また、就職希望者への指導の徹底により、内定率が向上し、加えて最後まで粘り強い指導を行えた。 3 地域連携等について 地域との連携については、専門学科の活動や連携コースでの取組により確実に充実・発展してきている。今後は、地域貢献から「地域参画」にシフトを変え、地域の小・中学校や地域自治体及び企業とさらに連携することが課題である。 4 規範意識に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導を強化して、帰属意識の定着を図ることができた。今後、教科指導を粘り強く行い、生徒の学力向上を図ると共に原留・中退等を減少させ、生き生きと充実した高校生活の充実を目指したい。また、部活動、清掃活動等を充実させ、規範意識の確立や帰属意識をより高めるための取組をさらに進めていきたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 創立118年を迎える「風かほる伝統校」木津高校の新たなスタートと位置づけた平成31年度、今後10年を見据えた普通科のエリア・コースを発展的に見直し、体系的な学習指導・進路指導を推進する特進エリアをスタートさせた。引き続きスタンダードエリアにおいて、対話的で深い学びを体験できるコースを進化させ、新学習指導要領の趣旨に対応させたコースの創造を図る。専門学科2学科については、グローバルGAPとエシカルビジネスをキーワードに、本校ならではの生産から消費までを視野に入れた取組の発展・深化を推進する。 2 生徒の希望進路の実現を第1に、入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力の向上を図る。進学・就職共に強い進路指導体制の充実を図るとともに、粘り強い学習指導を通して原留・中退・転学等を限りなく0に近づける指導を徹底する。 3 部活動の加入率70%以上を目指し、部活動のさらなる活性化を図る。また、学校行事に積極的、主体的に取り組むよう常に工夫・改善に努め、学校生活の一層の充実を図るとともに、生徒・保護者の学校満足度のさらなる向上を目指す。 4 清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけ、心身の健全な発達と母校を愛し、誇りの持てる高校生活の醸成を目指す。また、あいさつを励行し、ボランティア活動の一層の推進や地域連携、地域行事への積極的な参加等をととして、118年の歴史を誇る本校の建学の精神である地域に愛される、地域の高校としての存在感を高める。 5 引き続き工夫を凝らした広報活動を積極的に展開し、本校の特色ある教育活動を正しく、広く理解していただくとともに、積極的に授業、学校行事を公開し、地域に開かれた学校としての取組を推進する。 6 自他を大切にする人権感覚の育成に重点を置くとともに、身だしなみ違反や遅刻の根絶等、基本的生活習慣を確立する。また、全員が安心して安全な高校生活をおくれるよう規範意識の確立と授業規律を徹底し、教育環境を整備する。

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	修学保障	原級留置・中途転退学者数を限りなくゼロに近づける。	欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみではなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度人数より減少を目指す。 各学期末において、成績会議を開催し、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。	4	
	学習指導	授業規律を確保するとともに、授業改善を推進して学力向上を図る。	授業改善につながる取組(公開・研究授業週間、授業アンケート等)を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。	4	

			学力向上につながる取組を他分掌と連携して効果的に実施する。			
	学校運営	学校運営上のマニュアル、手引き、各種届け書等の見直しを図る。	マニュアル、手引き、各種届け書等の見直しを図り、全教職員が効率的に作業ができるようなルールづくりを行う。			
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。携帯電話やスマートフォンの使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。			
		保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	外部関係機関と連携を密にし、生徒の安全に留意した指導を行う。			
	特別活動	規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。生徒会、クラス委員、部活動の校内外での奉仕活動等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。部活動に参加しやすい環境をつくり、一人ひとりが達成感・充実感を得られるようにする。			
キャリア教育推進部	進路指導	進路希望を実現させる就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導体制のさらなる充実及び強化を図り、希望者全員の内定を得る。2年目を迎えた各学年の特別進学プログラムをチームを中心に各学年及び各教科と連携しながらより効果的に実施し、3年間を見据えた進学指導体制「守破離」の確立に向けた指導を行う。進路シラバスを基に系統的な進路学習を実施し、また適切な情報提供を行い、生徒の進路意識をさらに向上させ、希望進路実現に向かう。			
	中高連携	本校の教育活動に興味・関心を持つ生徒に多く受験し入学してもらうために、中学校との連携をより強化する。	中学校訪問や中学校教員対象の説明会の実施、あるいは中学生対象の説明会や専門学科セミナーの実施により中学校との信頼関係を構築し、特に相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。			
	広報活動	本校の特色ある教育活動を、中学校、地域社会、企業、大学へ広報する。	各分掌、教科、学科、部活動と連携して、ホームページを積極的に活用したリアルタイムな情報発信を行う。			
	普通科教育	普通科生徒の基礎学力育成と学習習慣を確立させる。	1年普通科の総合的な学習の時間において、基礎学力の育成及び学習習慣の確立を目指す。			
図書部	図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	生徒及び教職員の図書館資料や視聴覚教材の利用を促進する。生徒の図書・視聴覚委員会の活動に積極的、主体的に取り組ませる。HPを更新するなど、有効な広報活動を行う。			
保健部	健康・安全	清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育てる。	事務部と連携し、清掃道具の整備と充実に努める。清掃の要領を作成するなど生徒と教員がより効率的で清掃しやすい環境を整える。			
		生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を徹底する。	各種検診の全員受診を目指し、保健活動を充実させる。			
		要支援生徒に対する支援体制の充実を図り、生徒の着実な成長を目指す。	日常の生徒観察や学校適応推進会議、スクールカウンセラーを活用し、生徒理解に努める。			
農場部	農場経営	GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBAL GAPの継続認証を行う。	農場管理記録簿を全部門で記入し実習計画に応用する。作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。リスクを共有し対処できるようにする。			
		学科連携・地域連携・学校間連携をよ	T.V.F講座・情報企画科連携の内容を充実させる。			

情報企画部	学科経営	り充実させる。	大学・自治体をはじめ、他校種との学校連携を充実する。			
		「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	生徒の能力を最大限に伸ばすために、学科・地域と連携した取り組みをさらに充実させ、情報企画科の特色と魅力をより明確にする。 「持続可能な社会」に活躍する人材を育成するために、社会の趨勢を見極めながら時代に合った商業教育を行うための、カリキュラムや指導計画を見直し改善する。			
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	担任と連携してより進路計画を協議し、専門性を生かした進路実現を図る。			
		専門学科の魅力についてより広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	校外での説明会や地域に開かれたイベントの開催などによって、教員と生徒が協力してその魅力が伝わる広報活動を行う。			
第一学年部	学校生活	授業規律を守り、授業を大切にすることで、基礎学力の定着を図る。	計画的に面談を実施し、生徒理解および保護者との連携を深める。			
		身だしなみの徹底、挨拶や時間を守ることを推奨し、社会性豊かな集団を育成する。	授業を大切にすることを育成し、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。			
		部活動および学校行事に積極的に参加する姿勢を養う。	部活動参加を積極的に推進する。 校外学習・文化祭・体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。			
第二学年部	学校生活	学習習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。	授業を大切にすることを環境づくりと考査前学習会の実施で、学習習慣と基礎学力の定着を図る。			
		進路に対する意識を高め、自ら目標を定める。	進路実現のために、担任からの日常的な進路指導やキャリア教育推進部との連携を図り、個別に面談を定期的に行い、自ら進路目標を切り開く力を育てる。			
		思いやりの心を育み、人権意識を高め、社会性豊かな集団の育成を図る。	身だしなみを整え、日頃から正しい言葉遣いを心がけ、落ち着いた気持ちで学校生活を送れるようにする。 充実した研修旅行の実現に向け、人権学習や平和学習などをはじめとした事前学習・事後学習を計画的に行う。			
第三学年部	学校生活	進路実現と社会性豊かな資質を身につけさせる。	生徒の希望進路実現にむけ、保護者との密接な連携のもと進路指導をすすめる。 地域に愛される高校の一員として、身だしなみを整え、相応しい言葉遣いなど礼節が養われるようにする。 学校行事や清掃活動など日常の活動を通して、自他を大切にすること人権感覚を育成する。			
事務部	施設設備管理	安全安心な学校作り	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇所等には、早急に対応する。			
		北校長寿命化事業	各分掌、本庁担当課と連携し、計画的に有意義な改修を実施する。			
	会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	職員相互のチェック・確認体制の定着を図る。			
	省エネ・ゴミ削減と清掃	節電対策の推進	校内を巡回し、不必要な点灯箇所を消す等節電に努める。			
廃棄物量の削減と清掃		清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけるという短期経営目標を踏まえ、保健部と連携し、ゴミの分別・節減に努めるとともに、自らも積極的に清掃活動を実施し、生徒の模範となるようにする。				

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	教科指導	学習規律、学習習慣を確立させる。	「国語科3年間の取り組み」を基本に、取り組むべき課題を明示し、提出物の徹底を図る。 ノート作り、プリント内容を工夫し、基礎的な知識の定着を目指す。		
		基礎的な知識の定着を図り、国語力の充実を目指す。	各学年に計画されている模擬試験などに向けた対策指導を計画的に行う。 「漢字力」育成に向けた指導を充実させる。 小論文補習や進学補習などの取組を強化する。		
		教材の精選及び教材理解の深化、指導内容や方法の共有化を図る。	小教科担当者間で教材研究を行い、板書計画やプリント作成において担当者間の交流を図る。 3年「総合的な学習の時間」で国語力向上に向けた指導内容を充実させるとともに、「連携」関連科目の更なる発展深化を図る。		
地歴公民科	教科指導	学習習慣の確立を促す。	教科書やその他の教材・ノート類を揃えて授業に臨むよう指導を徹底する。 提出物の状況等を平常点として評価に加える。		
		効果的な学習方法を習得させ、基本的な知識を確実に定着させる。	折にふれて適切な課題を与える。 地歴公民科目目の効果的な学習方法を指導し、学習内容理解の定着を行う。		
		歴史的、社会的な事象に興味・関心を持たせ、自分の意見を持たせる。	レポート課題や発表活動を取り入れた指導を実施する。 視聴覚教材（新聞や写真）やICT教材を効果的に利用する。		
		消費者教育に取り組む。	消費者としての自覚を持たせる。		
数学科	教科指導	基礎学力の向上を図る。	授業中は、机上に教科書・ノート・問題集を置き、不要物を片付けさせ、身だしなみの点検指導を行うことで、気持ちを授業に向けさせる。 重要事項をノートにまとめさせ、生徒が主体的に学習に取り組むように、問題演習の時間を確保する。		
		学習習慣の確立と、進学に向けた指導を充実させる。	課題を与え家庭学習習慣の確立を図る。 進路実現に向け、補習や補講を充実させる。		
理科	教科指導	授業を大切に教育環境をつくり、基礎・基本を定着させる。	授業開始時に、机上の整理や身だしなみ点検を行うことで授業の準備をさせる。 各科目とも平常点を20～30%に設定することで、ノートをとったり、提出物を出すように指導する。		
		理科教育の充実を図る。	教科会で予備実験を行って、新しい実験を試したり、教員間で共有する。また、予備実験の時間を短縮することでより多くの実験を実施できるようにする。 アクティブ・ラーニングの要素を取り入れて、学び合いにより科学的に探求する姿勢を養う。		
保健体育科		豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	安全に留意しながら、体力の向上を目指すとともに運動の特性に応じた楽しさを感じさせる。		
		健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。	新体力テストのフィードバックを行い、主体性を持たせる指導を行う。		
		規律ある集団行動の実践と、協調性を持った生徒を育成する。	毎時間、講座全体集合を行い、健康や安全に留意して授業が行えるように努める。		

芸術科	教科指導	基本的な学習習慣の確立	授業規律を明確にして指導し、授業態度に問題ある生徒に対して個別に注意を促す。特に理由のない遅刻・欠席や未提出・不参加・取組不足には強く指導する。 課題や作品の提出や発表の期限及び各種届の提出を厳守させる。				
		学習活動の充実	意欲的に実習に取り組み生涯芸術が愛好できるように教材を精選し、興味関心をより強く持たせて学習活動を充実させる。				
英語科	教科指導	様々な学習活動を通して生徒の英語学習へのモチベーションを高め、積極的な発言につなげる。	検定試験の受験、スピーチコンテストへの参加等、様々な取り組みを通して、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。また普段の授業での教授法や活動を工夫し、積極的に英語でコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。				
		多様な進路希望に対応できる語彙力と文法知識の定着と向上を図る。	定期的な課題や、授業内での単語テスト等を行うことで語彙力と文法知識の定着を図る。また、計画的で効果的な補習を実施し、基礎学力の向上を図るとともに、発展的な学力の素地を養う。 さらに、来たる大学入学共通テスト導入を視野に入れ、特進エリア1年生にGTEC受験を必修にするなど、時代に応じた英語指導体制を模索する。				
家庭科	教科指導	学習規律を確保し、学習習慣を定着させる。	始業時に学習に向かう姿勢を整えさせる。				
		自分の生活を見つめ、改善すべき点を把握させる。	定期的にノートやレポートを提出させ点検を行う。				
		将来に生かせる知識、技術を習得させる。	各領域において、問題意識を持たせながら授業を展開し、知識・技能を生かせる場面を提示する。				
情報科	教科指導	情報に対する正しい理解と、情報技術を正しく活用する技術を習得させる。	PowerPointの効果的な活用技能を指導する。 プレゼンテーション技法（身だしなみ指導を含む）の指導を行い、プレゼ発表を実施する。				
		授業の規律とルールを重んじ、情報社会におけるモラルと関連づけて指導を行う。	実習時、上履きの整理整頓の点検を行う。 「授業を大切にしよう」の声かけを行うとともに、PC機器の適切な取扱について指導する。 提出物の期限内提出の指導を行う。				
農業科	教科指導	地域・大学等と連携した取組を行い応用力の向上を図る。	木津北地区の整備と保全活動に取り組む。 大学や専門機関と連携をし学習、実験を実施する。				
		資格取得の取組を活かし学力向上を図る。	農業技術検定、危険物取扱者資格、情報処理検定を複数取得させ生徒に専門力をつけさせる。				
商業科	教科指導	授業規律を重んじ、主体的な学習姿勢を身につけさせる。	授業前後の挨拶や授業の受け方について重点的に指導を行い、主体的に学習を行う態度を身につけさせる。				
		商業科の専門性を生かした進路実現のため、資格取得の実績や研究活動の成果をしっかりと自覚させる。	各科目における生徒の習熟度を教科内で共有し、全体でフォローを行う。 生徒が資格取得の実績を残せるよう、授業や補習によって十分にバックアップする。 研究活動の成果について生徒自身が自覚できるよう、研究ノートの蓄積と発表会に向けた指導を工夫する。				
	教科指導	地域連携や高大連携を通して、幅広い知識や経験を会得し、活用できる	地域や大学と連携し、フィールドワークや出前授業の実施を行う。				

連携 科	力を育成する。	----- 地域や大学と連携を密に図りながら、継続的・発展的なテーマで課題研究の指導を行う。			
	推薦・AO入試に必要な「伝える力」を育成する。	2年生では文章検定3級合格率70%以上を目指し、適切な指導を行う。 ----- プレゼンテーション技法（身だしなみ、挨拶の指導を含む）の指導を行い、各学期に1回プレゼンテーションを行う。			
	担当教員間の連携を図り、教科として組織的に取り組む。	教科会の定期的な開催を通して、情報共有を行う。 ----- 継続的・発展的に、よりよい教育活動が行えるように教育内容や評価などについて協議する。			